

# 生分解性マルチの効果確認試験

JAふらの  
柿原 隆宏



①試験区 6.17撮影



②試験区 6.17撮影



③試験区 6.17撮影



④慣行区 6.17撮影



⑤慣行区 6.17撮影



⑥慣行区 6.17撮影

### 試験目的

生分解性マルチの効果確認試験

### 試験作物 及び品種

かぼちゃ  
くりゆたか

### 試験資材 及び数量(規格)

きえ太郎Z(0.015mm×95cm×400m) 銀ネズ 1本

### 慣行資材

キ工丸(0.018mm×95cm×400m) 銀ネズ

### 栽培方法

定植日	収穫日	【栽植密度】 畝幅：300cm 株間：60cm
慣行区：6月3日 試験区：6月3日	慣行区：8月21～22日 試験区：8月21～22日	

### 資材使用期間

慣行区：6月2日～8月下旬  
試験区：6月2日～8月下旬

### 試験結果

#### (1)作業性について(慣行品との比較)

慣行品がストレッチ性に優れているのに対し、試験品は若干固めに感じたが、遜色はなかった。

試験品のセンターマークは20cm・30cm併用ピッチのため、少々印刷が多いように感じた。

#### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

高温・干ばつにより全体的に生育が悪かった。

慣行区と試験区での生育差はなかった。

#### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：試験品の方が薄肉の分軽量。

【問題点】：なし

#### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

どちらも収穫時にはある程度分解が進んでいたが、慣行品の方がパラパラ感が強いかぼちゃに少々付着するのに対し、試験品の方がパラパラ感が弱く、あまり付着しなかった。

#### (5)促成・抑制効果について

問題なかった。

#### (6)保温効果について

問題なかった。

### モニター感想

慣行品の方がストレッチ性があるように感じたものの、展張作業性に大きな差はなかった。

マルチャーで展張する際のマルチ地際の土の被りも問題ない。

センターマークが20cm・30cm併用ピッチの分、印刷が少しうるさく感じた、今年は近年稀にみる高温・干ばつで、全体的に生育が悪い傾向であったが、慣行区と試験区での生育差は感じなかった。

継続して4月上～中旬までの分解具合を観察したい。

#### JA担当者の感想(生産資材課 資材センターふらの店 前多 氏)

慣行区との差は展張・生育通じてほとんど感じなかったため性能としては問題は無いと感じたが、出来れば慣行区より良い評価が欲しかったのが本音。(生産者は同じ商品は求めていない為)

性能が同等となると選り基準が価格になると思われるので、価格面の方が気になる。

あとは春先の分解具合で優位性を持てる事を期待したい。

### 今後の使用について

継続して使用したい。